

RESEARCH
STORY

2007

言語聴覚士の免許取得

作業療法士の姉を見て、リハビリテーション分野に興味を持つ。もともと人と話すことが好きで、コミュニケーションに困難を抱える人の力になりたいと思い、言語聴覚士を志望。大学卒業時に資格を取得し、大阪の病院に入職。

2013

舌運動と発話について
修士論文を書き
舌圧の重要性に着目

舌と発話の研究を進めるなかで、舌と嚥下の関係にも興味が発展。現在の研究につながっていく。

2017

ソフトウェアを用いた
舌圧波形のフィードバック
効果に関する研究開始

舌のトレーニングを行う際、舌圧の強弱をモニターに波形で表示。舌圧波形を提示することで舌圧がより高くなることを実証し、学会で報告。



2024

森ノ宮医療大学に入職
他学科との連携に期待

森ノ宮医療大学は研究室が理学療学科と共同で、自然と他学科との交流が生まれやすい環境。大学全体が、本気でチーム医療に取り組んでいる熱意を感じる。

南都 智紀

言語聴覚学科 准教授

言語聴覚士、修士(保健福祉学)、博士(歯学)

他学科とのコラボで
研究の発展が期待できる!!

\ こんな研究やってます!! /

舌圧トレーニングの可視化による
舌の機能向上の効果を検証

病院では、発話や嚥下の機能を高めるために舌のトレーニングが行われています。それは、小さな風船状のプロブを口の中に入れ、舌を押しつけてプロブを潰してその圧力を計測するもの。手足のトレーニングと違って、対象者は舌を視覚的に確認できないため、運動をイメージできない方が多数です。以前より舌圧測定器でとらえた圧変化を波形で可視化するソフトウェアはありましたが、その効果は検証されていませんでした。しかし研究により、舌圧の数値だけをデジタル表示するより、ソフトウェアを用いて舌圧の強弱をリアルタイムに確認できる方が、より高い舌圧を発揮できることが明らかとなりました。

嚥下には強い舌圧が必要ですが、発話には舌の力のコントロールが重要です。現在は一定の圧を保つ持久力や圧をコントロールする能力など、波形のフィードバックによる効果をまとめています。「舌の機能と発話機能の関係性」、「舌の機能と嚥下機能の関係性」それぞれのテーマで研究者がいますが、私はその両者を融合した新しい研究に挑戦しています。この研究が一段落したら、他学科の先生方とも共同でさらに研究を発展させていきたいと思っています。森ノ宮医療大学は教育・研究・臨床のバランスが取れた大学なので、今後の研究活動が楽しみです。

他学科の研究にもアイデアをもらい
新たな研究を進めていきたい。

本学にはインクルーシブ医科学研究所や附属クリニックがあり、他学科の先生方との交流も多く、医療情報のインプットが格段に増えました。海外では、鍼による嚥下機能の改善に関する研究も進んでいるため、鍼灸学科の先生からも多くを学びたいと思っています。